

## 弥生土器から推定できる つくられた時期

III-4-①

弥生土器は、その形や文様から、つくられた時期が推定できます。

形や文様の特徴が時間的・地域的にまとまりをもつ土器のグループを「型式」とし、それらが出土した遺跡の名前をとって「～式土器」と呼ばれています。例えば、きれいに平行する2~3本の沈線で文様が描かれる土器は、十三塙式土器と呼ばれ、東北地方南部において弥生時代中期の末頃のものとされています。

名取の地では、だいたい7つの型式の土器が出土しており、弥生時代において、土器の形や文様がどのように変化していったのかが解明されつつあります。

III-4-①

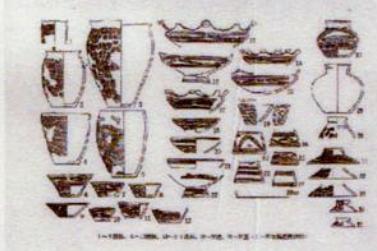
### 弥生土器型式の変遷

時期区分	市内の主な遺跡	土器型式
-2400年前	道後川	青木畠式
前期	十二塙遺跡 白井田遺跡 高尾村遺跡	青木畠式 十二塙式土器が作られる 後三日塙式土器が作られる
2100年前	立石の古墳	高尾村遺跡
中期	高尾村遺跡	寺下塙式土器が作られる 後三日塙式土器が作られる 円田式土器が作られる 十三塙式土器が作られる
1900年前	上北の古墳	十三塙式土器が作られる
後期	上北の古墳	天王山式土器が作られる
-1700年前		

III-4-②

## 青木畠式土器

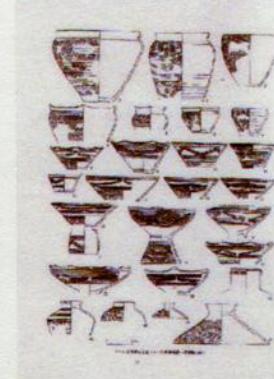
III-4-③



III-4-③

## 山王Ⅲ層式土器

III-4-④



III-4-④

## 寺下塙式土器

III-4-⑤



III-4-⑤

## 樹形圓式土器

III-4-⑥



III-4-⑥

## 円田式土器

III-4-⑦



III-4-⑦

## 十三塙式土器

III-4-⑧



III-4-⑧

## 天王山式土器

III-4-⑨



III-4-⑨